





[左]Computex(TWTC)会場風景

[右]BC Award 「Computer & System Best of the Year製品」  
[右下]COMPUTREND Area



港展示館に主要企業の出展が多く、Computers & Systems Areaのある南港展示館には、Intel、MS、Acer、AMD、ASUS、HITACHI、NVIDIA等が華やかな展示を行っていました。JASAも最新技術動向を展示するCOMPUTRENDエリアの一角にブースを開設し、今秋開催するET2011のプロモーションを実施しました。両会場は今年開通した地下鉄MRTにより移動が大変便利になっていました。

また、Computexでは、Computer System、Green ICT、IOT Application、IPC & Embedded等の分野から優秀な製品を選出するコンテスト「Best Choice Award」を設けており、第10回目となる今回は446種類の製品がノミネートされ、うち34の受賞が選出されていました。審査委員には欧米の著名IT関連Webの編集長やデザイナーを含む専門家を招へいし、厳正な審査を行ったとのこと。機能性やデザイン性、話題性など今年のComputexでの最新トレンドが分かるコンテストとなっています。

6月1日夕刻には、我々JASAのET展示会で以前から実施しているETフェスタを手本とした「CompuFesta」が初めて実施され、展示会場では主催者から振舞われたビールを片手にコミュニケーションの輪が広がっていました。

併催イベントでは、エグゼクティブスピーチとして、Intel、ARM、Broadcom、AMD、Opera Soft、NXPの各副社長レベルの講演が、またイノベーションフォーラムでは、ST Micro、Qualcomm、NTT Docomo等が、技術講演では、スマートフォ

ン、3D、ワイヤレス通信、ハンドヘルドデバイス、モバイル組込みセキュリティ等の各セッションでの講演が行われていました。これとは別に、ホームネットワーク、スマートエネルギー、デジタルサイネージの各フォーラム、台北国際会議センターTICC大会議室ではIntelとMicrosoftがプライベート講演を実施していました。

また、両岸(中国と台湾)交流の新たな企画として注目されていたのが「クラウドコンピューティングフォーラム」で、中国におけるクラウドコンピューティングの背景や市場規模などについての講演が行われていました。これと併せ、南港展示館にて「China Exhibitors Area」が開設され中国企業の出展が行われていました。

過去最大規模で開催されたComputex TAIPEI 2011は、台湾ICT産業のイノベーション力とインテグレーション力の高さを世界に向けて発信する有効なイベントとなっている強く感じました。